

Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2024/02/01

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	35.56	0.16
JPY/THB	0.2420	0.0022
USD/JPY	146.92	-0.69
EUR/THB	38.46	0.10
EUR/USD	1.0818	-0.0027
USD/CNH	7.187	0.000
SGD/THB	26.53	0.12
AUD/THB	23.35	-0.02
USD/INR	83.04	-0.07
USD Index	103.27	-0.12

Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	2.369	0.019
10Y (THB)	2.647	0.009
5Y (USD)	3.835	-0.133
10Y (USD)	3.912	-0.120

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	2,048.4	16.9
WTI (Oil)	75.85	-1.97
Copper	8,608.5	-6.5

Stock

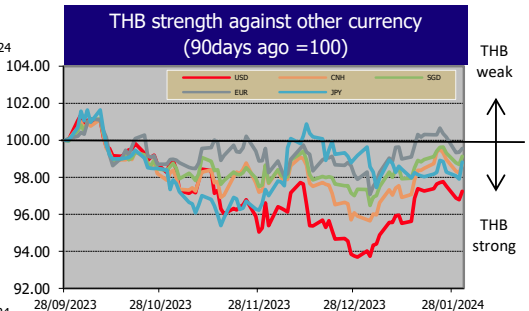
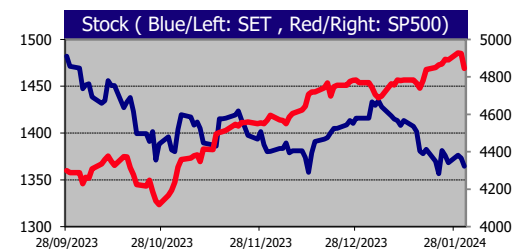
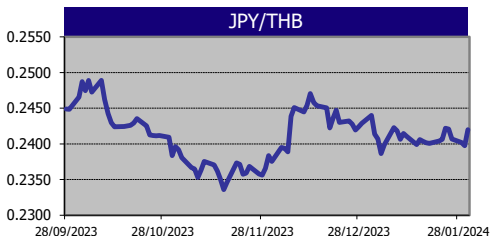
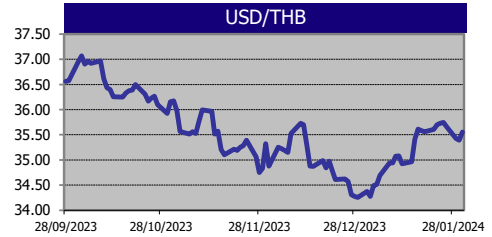
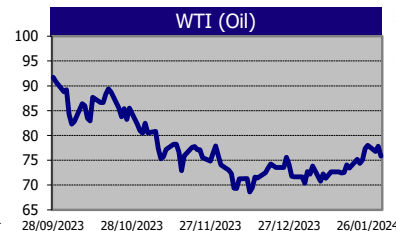
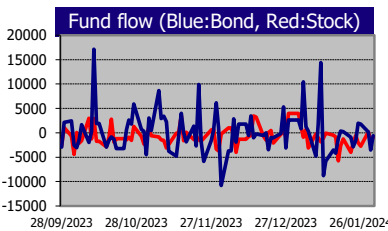
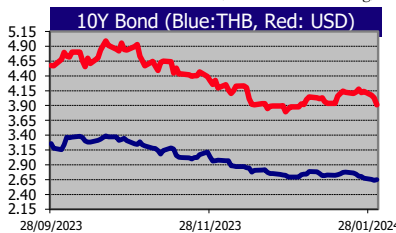
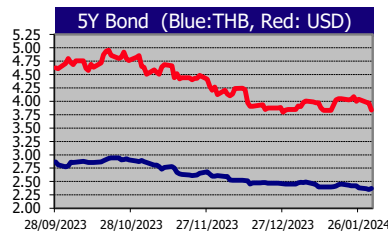
	Close	CHANGE
SET (TH)	1,364.52	-8.62
NIKKEI (JP)	36,286.71	220.85
DOW (US)	38,150.30	-317.01
S&P500 (US)	4,845.65	-79.32
SHCOMP (CN)	2,788.55	-41.98
DAX(GER)	16,903.76	-68.58

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	(961)	435.6
Bond net flow	(589)	2931.0

*compared with previous day

(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルパーツ

・昨日のドルパーツは上昇。35パーツ前半で取引を開始すると、バンコク時間午後にかけて35パーツ台半ば付近まで上昇するも、FOMCの結果公表を控える中、勢いは一服し、同水準での推移が継続。海外時間に入ると、米1月ADP雇用統計、米第4四半期雇用コスト指数が市場予想を下回る結果であることが確認され、35パーツ台前半まで下落。ただ、その後FOMCの結果が公表され、市場予想通り政策金利は据え置かれたものの、声明文において「インフレが持続的に2%に向かうとの確信が持てるまでは政策金利を引き下げることが適切になるとは想定していない」旨の表現が追加されたことや、パウエル議長から3月会合における利下げに否定的なニュアンスの発言が確認されたことに反応する格好で、ドルパーツは35パーツ台半ばまで反転上昇。そのまま35.56レベルでクローズを迎えた。

●ドル円その他

・昨日のドル円は下落。147円台前半で取引を開始。東京時間朝方に公表された日銀の『主な意見』(1月会合分)においてマイナス金利解除に向けたタカ派スタンスが確認されたことで、一時円買い優勢の地合いとなるも、月末の実需のドル買いに値を戻す展開に。以降はFOMCの結果公表を控え、147円台半ばから後半にかけての推移が継続。海外時間に入ると、米国労働関連指標の軟調な結果に一時146円台前半まで急落。その後、FOMCの結果が公表され、ドル円相場は上下に大きな値幅を伴う動きを見せるも、結局は3月会合での利下げ観測が後退する中、146.92の水準まで戻し、引けた。

Bangkok Dealer's Eye

米FOMCは事前予想通り政策金利の据え置きを決定、声明文では、追加利上げに関する文言が削除された一方、インフレ率が持続的に2%に向かう確信強めるまで利下げはないとの表現が追加された。その後のパウエル議長会見では「3月の利下げは考えていない」との発言もあり、総じて今回のFOMCは市場が織り込む利下げ時期を後退させるイベントだったと評価できるだろう。今年の円やパーツのテーマは、主要国の利下げ実施の順序、またその中での日銀の動向だと考えているが、昨日のFOMCも踏まえ改めて整理してみると、利下げは欧州、米国、タイの順番か。欧州は早期の利下げをけん制する発言が目立つものの、経済の減速は明らかであり、成長のモメンタムを維持している米国と状況は異なる点で最速を予想。タイは政府が中銀に対して執拗に利下げを要請している点はリスク要因だが、景気対策に伴うインフレ再燃への警戒や、資本流出の観点で米国よりも先には利下げにくいという懐事情を加味し、利下げできても今年後半と想定したい。日本のマイナス金利解除時期は、国内の資金動向が把握できるタイミングと、海外中銀が動き出す前に動くことが基本戦略という2つの事情を合わせ、4月が妥当な線と考える。各通貨の見通しについてはこうした想定をもとに考えておくようにしたい。(吉田)

The report is prepared for the sole purpose of information only. It is not an invitation to trade. The writer's view expressed herein would not be substituted for the exercise of rational judgement by the recipients.